

海峡渡る 風が哭き哭き

心の隙間に 入り込む

粉雪が舞う 岬にたたずみ

海峡渡船（とせん）を 見送る女

帰る日を待ち 命火ともす

あなたはきっと 帰って来ると

三月（みつき）の夜を 枕抱き

春にはあなたの 光る笑顔が

海峡渡船で 波を乗り越え

わたしの元へ 戻ってくるわ

岬の桜が 散りはじめても

あなたを乗せた 船は来ず

沖を見つめて あなたを呼べば

海峡渡船が 空しく通る

わたしの胸は 涙に濡れる